

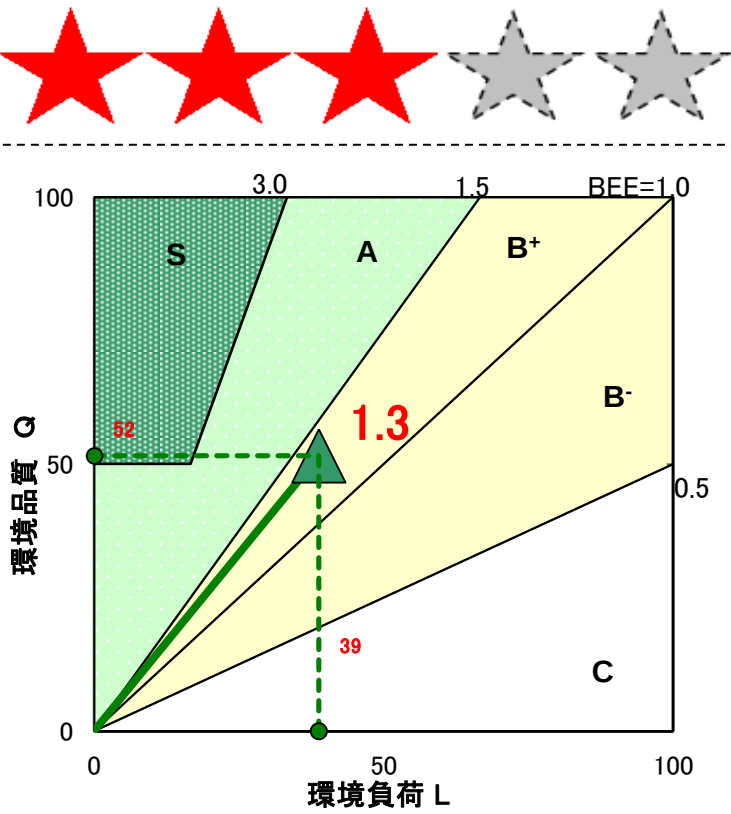
CASBEE®熊本《新築》【性能表示】

■ 建物概要				■ 外観
建物名称	上熊本サービス付き高齢者向け住宅	階数	地上4F	
建設地	熊本県熊本市西区上熊本2丁目327	構造	S造	
用途地域	準工業地域、準防火地域	平均居住人員	50 人	
気候区分	地域区分Ⅳ	年間使用時間	8,760 時間/年	
建物用途	病院,	評価の段階	実施設計段階評価	
竣工年	2015年3月 予定	評価の実施日	2014年4月21日	
敷地面積	1,389 m ²	作成者	中島 章	
建築面積	773 m ²	確認日	2014年4月21日	
延床面積	2,725 m ²	確認者	吉永 拓郎	

1CASBEE評価結果

■ 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

★★★★★



BEE = 1.3

■BEE(環境効率) = $\frac{Q \text{ (環境品質)}}{L \text{ (環境負荷)}}$

■環境効率評価基準

ランク	ランク表示	評価	判定値	
			BEE値	Q値
S	★★★★★	素晴らしい	3.0以上	50以上
A	★★★★★	大変良い	1.5以上3.0未満	—
B ⁺	★★★★	良い	1.0以上1.5未満	—
B ⁻	★★★	やや劣る	0.5以上1.0未満	—
C	★	劣る	0.5未満	—

■ライフサイクルCO₂ 排出性能評価基準

判定値(排出率)	ランク表示
30%以下	☆☆☆☆☆
30%超60%以下	☆☆☆☆
60%超80%以下	☆☆☆
80%超100%以下	☆☆
100%超	☆

■ ライフサイクルCO₂排出性能(ランク表示)

☆☆☆☆☆

排出率

78%

2 熊本県重点評価結果

■ 重点事項総合評価



84

評価点

■熊本県重点評価基準

判定値(評価点)	ランク表示
100点以上	
80点以上100点未満	
60点以上80点未満	
40点以上60点未満	
40点未満	

【重点事項1】 温室効果ガス排出量削減の推進

86.2

【重点事項2】 安全安心で暮らしやすい社会の実現

68.7

【重点事項3】 県の地域資源の有効活用と保全

92.8

【重点事項4】 循環型社会の実現

85.5

※評価点は、100点以上が推奨です。

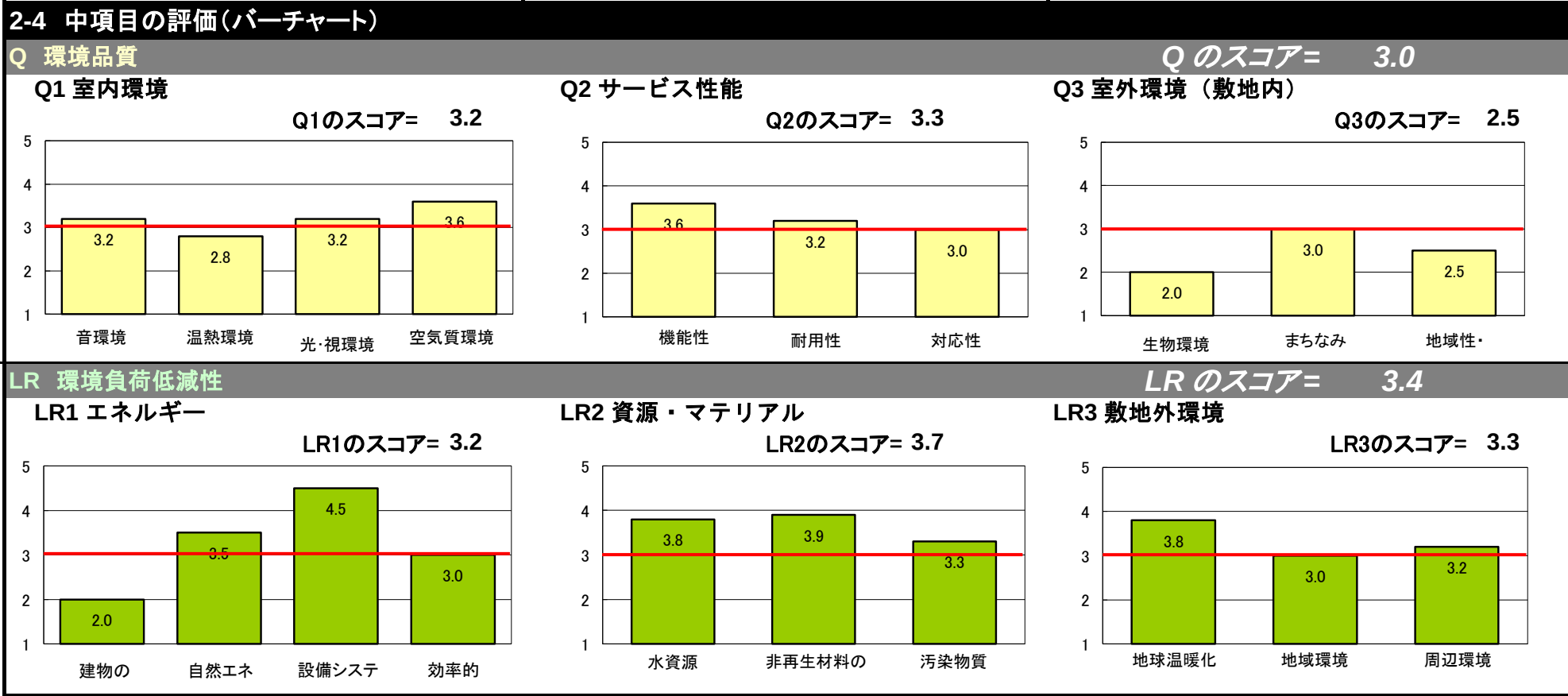
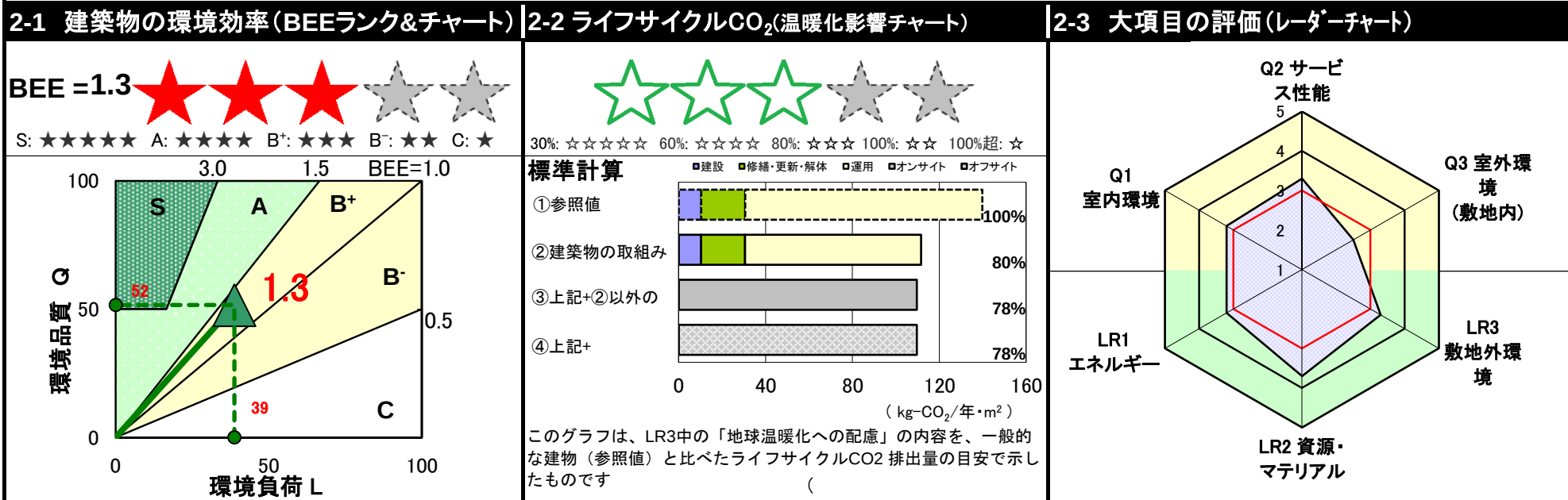
Page : 1/6

Sheet : 1/5

CASBEE®熊本《新築》【評価結果】

■使用評価マニュアル：CASBEE-新築（簡易版）2010年版 ■使用評価ソフト：CASBEE-NCb_2010(v.1.3)

1-1 建物概要				1-2 外観
建物名称	上熊本サービス付き高齢者向け住宅	階数	地上4F	
建設地	熊本県熊本市西区上熊本2丁目327番	構造	S造	
用途地域	準工業地域、準防火地域	平均居住人員	50 人	
気候区分	地域区分Ⅳ	年間使用時間	8,760 時間/年	
建物用途	病院,	評価の段階	実施設計段階評価	
竣工年	2015年3月 予定	評価の実施日	2014年4月21日	
敷地面積	1,389 m ²	作成者	中島 章	
建築面積	773 m ²	確認日	2014年4月21日	
延床面積	2,725 m ²	確認者	吉永 拓郎	



■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency（建築環境総合性能評価システム）
■Q: Quality（建築物の環境品質）、L: Load（建築物の環境負荷）、LR: Load Reduction（建築物の環境負荷低減性）、BEE: Building Environmental Efficiency（建築物の環境効率）
■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-新築(簡易版)2010年版			■使用評価マニュアル CASBEE-新築(簡易版)2010年版								
上熊本サービス付き高齢者向け住宅			欄に数値またはコメントを記入		■評価ソフト: CASBEE-NCb_2010(v.1.3)						
スコアシート			実施設計段階								
配慮項目			環境配慮設計の概要記入欄		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体		
					評価点	重み係数	評価点	重み係数			
Q 建築物の環境品質									3.0		
Q1 室内環境						0.40			3.2		
1 音環境					3.3	0.15	3.0	1.00	3.2		
1.1 騒音			吸音性の高い床材の使用。遮音性能T-2サッシの採用	4.0	0.40	4.0	0.40				
1 室内騒音レベル		4.0		1.00	4.0	1.00					
2 設備騒音対策		-		-	-	-					
1.2 遮音				3.8	0.40	3.1	0.40				
1 開口部遮音性能		T-2		5.0	0.40	5.0	0.30				
2 界壁遮音性能				3.0	0.60	2.0	0.30				
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				3.0	-	3.0	0.20				
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				3.0	-	2.0	0.20				
1.3 吸音				1.0	0.20	1.0	0.20				
2 温熱環境					2.9	0.35	2.8	1.00	2.8		
2.1 室温制御			窓システムSC:0.46、U=0.731 外壁・その他:U=0.7 ゾーン別に冷房・暖房の選択可能	3.6	0.50	3.4	0.50				
1 室温		3.0		0.38	3.0	0.57					
2 負荷変動・追従制御性		-		-	-	-					
3 外皮性能		4.0		0.25	4.0	0.43					
4 ゾーン別制御性		4.0		0.38	-	-					
5 温度・湿度制御		-		-	-	-					
6 個別制御		-		-	-	-					
7 時間外空調に対する配慮		-		-	-	-					
8 監視システム		-		-	-	-					
2.2 湿度制御				1.0	0.20	1.0	0.20				
2.3 空調方式				3.0	0.30	3.0	0.30				
3 光・視環境					3.3	0.25	3.1	1.00	3.2		
3.1 屋光利用			屋光率 共用:2.7% 住居:1.02%	4.2	0.30	3.6	0.30				
1 屋光率		5.0		0.60	4.0	0.60					
2 方位別開口		-		-	3.0	-					
3 屋光利用設備		3.0		0.40	3.0	0.40					
3.2 グレア対策				3.0	0.30	3.0	0.30				
1 照明器具のグレア		-		-	-	-					
2 屋光制御		3.0		1.00	3.0	1.00					
3 映り込み対策		-		-	-	-					
3.3 照度				3.0	0.15	3.0	0.15				
3.4 照明制御				3.0	0.25	3.0	0.25				
4 空気質環境						3.9	0.25		3.3	1.00	3.6
4.1 発生源対策			床、壁、天井、天井裏等ほぼ全面にF☆☆☆☆使用	4.0	0.50	4.0	0.63				
1 化学汚染物質		4.0		1.00	4.0	1.00					
2 アスベスト対策		-		-	-	-					
3 ダニ・カビ等		-		-	-	-					
4 レジオネラ対策		-		-	-	-					
4.2 換気				3.0	0.30	2.3	0.38				
1 換気量		共用部分:必要換気量の1.4倍以上		5.0	0.50	3.0	0.33				
2 自然換気性能				3.0	-	3.0	0.33				
3 取り入れ外気への配慮				1.0	0.50	1.0	0.33				
4 給気計画				-	-	-	-				
4.3 運用管理				5.0	0.20	-	-				
1 CO ₂ の監視				3.0	-	-	-				
2 喫煙の制御		建物館内全て禁煙		5.0	1.00	-	-				
Q2 サービス性能						-	0.30		-	-	3.3
1 機能性						3.1	0.40		4.4	1.00	3.6
1.1 機能性・使いやすさ					3.0	0.40	5.0		0.60		
1 広さ・収納性		3.0	-		5.0	1.00					
2 高度情報通信設備対応		3.0	-		3.0	-					
3 バリアフリー計画		3.0	1.00		-	-					
1.2 心理性・快適性			3.0		0.30	3.5	0.40				
1 広さ感・景観		3.0	-		4.0	0.50					
2 リフレッシュスペース		3.0	-		-	-					
3 内装計画		3.0	1.00		3.0	0.50					
1.3 維持管理			3.5		0.30	-	-				
1 維持管理に配慮した設計		防汚性の高い仕上げ材採用	4.0		0.50	-	-				
2 維持管理用機能の確保			3.0		0.50	-	-				
3 衛生管理業務			-		-	-	-				
2 耐用性・信頼性					3.2	0.31	-	-	3.2		
2.1 耐震・免震				3.0	0.48	-	-				
1 耐震性		3.0		0.80	-	-					
2 免震・制振性能		3.0		0.20	-	-					
2.2 部品・部材の耐用年数				3.3	0.33	-	-				
1 躯体材料の耐用年数		3.0		0.23	-	-					
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		3.0		0.23	-	-					
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		3.0		0.09	-	-					
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0		0.08	-	-					
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		給水管、排水管:B 消火(SP)配管:C Eは不使用		5.0	0.15	-	-				
6 主要設備機器の更新必要間隔				3.0	0.23	-	-				

	2.3 適切な更新			-	-	-	-	
	2.4 信頼性			3.6	0.19	-	-	
	1	空調・換気設備	大便器：大4.8L 小便器・共用洗面器：自動水栓、配管系統を区分 浸水の危険性なし	3.0	0.20	-	-	
	2	給排水・衛生設備		4.0	0.20	-	-	
	3	電気設備		4.0	0.20	-	-	
	4	機械・配管支持方法		3.0	0.20	-	-	
	5	通信・情報設備	光ケーブル、携帯電話、PHS網設置	4.0	0.20	-	-	
3 対応性・更新性				3.1	0.29	3.0	1.00	3.0
3.1 空間のゆとり				3.4	0.31	3.0	0.50	
				3.0	0.60	3.0	0.60	
			建物全体壁長さ比率＝0.268、居室壁長さ比率＝0.333	4.0	0.40	3.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり				3.0	0.31	3.0	0.50	
3.3 設備の更新性				3.0	0.38	-	-	
				3.0	0.17	-	-	
				3.0	0.17	-	-	
				3.0	0.11	-	-	
				3.0	0.11	-	-	
				3.0	0.22	-	-	
				3.0	0.22	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)				—	0.30	-	-	2.5
1 生物環境の保全と創出				2.0	0.30	-	-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮				3.0	0.40	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮				2.5	0.30	-	-	2.5
			3.1 地域性への配慮、快適性の向上	3.0	0.50	-	-	
			3.2 敷地内温熱環境の向上	2.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性				—	-	-	-	3.4
LR1 エネルギー				—	0.40	-	-	3.2
1 建物の熱負荷抑制				2.0	0.30	-	-	2.0
2 自然エネルギー利用				3.5	0.20	-	-	3.5
			2.1 自然エネルギーの直接利用	3.0	0.50	-	-	
			2.2 自然エネルギーの変換利用	4.0	0.50	-	-	
			太陽光発電設備設置					
3 設備システムの高効率化			LED照明、高効率空調の採用	4.5	0.30	-	-	4.5
			集合住宅以外の評価(ERRIによる評価)	4.0		-	-	
			集合住宅の評価	3.0		-	-	
			ERR=25.8%					
4 効率的運用				3.0	0.20	-	-	3.0
			4.1 モニタリング	3.0	0.50	-	-	
			4.2 運用管理体制	3.0	0.50	-	-	
LR2 資源・マテリアル				—	0.30	-	-	3.7
1 水資源保護				3.8	0.15	-	-	3.8
			1.1 節水	4.0	0.40	-	-	
			節水コマに加え大便器：節水型4.8L、自動水栓付小便器設置					
			1.2 雨水利用・雑排水等の利用	3.6	0.60	-	-	
			1 雨水利用システム導入の有無	4.0	0.67	-	-	
			雨水タンク150L 2ヶ所設置					
			2 雑排水等利用システム導入の有無	3.0	0.33	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減				3.9	0.63	-	-	3.9
			2.1 材料使用量の削減	3.0	0.07	-	-	
			2.2 既存建築躯体等の継続使用	3.0	0.25	-	-	
			2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	3.0	0.21	-	-	
			2.4 非構造材料におけるリサイクル材の使用	5.0	0.21	-	-	
			自動洗浄小便器、アクアオート(発電タイプ)、タイルカーペット					
			2.5 持続可能な森林から産出された木材	-	-	-	-	
			2.6 部材の再利用可能性向上への取り組み	5.0	0.25	-	-	
			ALC+軽鉄+仕上材、内装材と設備がそれぞれ容易に取り外せる					
3 汚染物質含有材料の使用回避				3.3	0.22	-	-	3.3
			3.1 有害物質を含まない材料の使用	4.0	0.32	-	-	
			壁紙用接着剤、ノンワックス塩ビシート使用					
			3.2 フロン・ハロンの回避	3.0	0.68	-	-	
			1 消火剤	-	-	-	-	
			2 発泡剤(断熱材等)	3.0	0.50	-	-	
			3 冷媒	3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境				—	0.30	-	-	3.3
1 地球温暖化への配慮			冷暖房COP1.25以上の熱源機器、照明エネルギー係数=0.41、太陽 光発電設備	3.8	0.33	-	-	3.8
2 地域環境への配慮				3.0	0.33	-	-	3.0
			2.1 大気汚染防止	3.0	0.25	-	-	
			2.2 温熱環境悪化の改善	3.0	0.50	-	-	
			2.3 地域インフラへの負荷抑制	3.2	0.25	-	-	
			1 雨水排水負荷低減	4.0	0.25	-	-	
			雨水浸透施設(行政指導)、雨水タンク150L 2基設置					
			2 汚水処理負荷抑制	3.0	0.25	-	-	
			3 交通負荷抑制	3.0	0.25	-	-	
			4 廃棄物処理負荷抑制	3.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮				3.2	0.33	-	-	3.2
			3.1 騒音・振動・悪臭の防止	3.0	0.40	-	-	
			1 騒音	3.0	1.00	-	-	
			2 振動	-	-	-	-	
			3 悪臭	-	-	-	-	
			3.2 風害・砂塵・日照障害の抑制	3.0	0.40	-	-	
			1 風害の抑制	3.0	0.70	-	-	
			2 砂塵の抑制	3.0	-	-	-	
			3 日照障害の抑制	3.0	0.30	-	-	
			3.3 光害の抑制	4.4	0.20	-	-	
			1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	5.0	0.70	-	-	
			「公害対策ガイドライン」過半満たす。広告物照明行わない。					
			2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	3.0	0.30	-	-	

CASBEE® 熊本《新築》【配慮事項】

4 設計上の配慮事項

総合

注) 設計における総合的なコンセプトを簡潔に記載してください。

■建物の環境性能を高め、また環境負荷の軽減に努めるなど、環境にやさしい建物とする。

Q1 室内環境

注) 「Q1 室内環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。

■遮音性能の高いサッシ、ペアガラスを採用し、外皮性能を高めた。

■床・壁・天井・天井裏のほぼ全面にF☆☆☆☆の材料を使用する。

■良好な室内環境の為に吸音性の高い床材を採用した。 また、全館禁煙とした。

Q2 サービス性能

注) 「Q2 サービス性能」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。

■給排水・衛生設備において節水型器具を採用

■通信手段の多様化を図った。

Q3 室外環境（敷地内）

注) 「Q3 室外環境（敷地内）」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。

■狭い敷地の中のできる限り緑化に努めた。

■建物の外観は周辺の景観に配慮し落ち着いた色を基調とした。

LR1 エネルギー

注) 「LR1 エネルギー」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。

■LED照明を採用し、照明エネルギー消費係数を低く抑えた。

■太陽光発電設備を設置。

LR2 資源・マテリアル

注) 「LR2 資源・マテリアル」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。

■節水に効果のある節水コマと節水型器具をほぼ全面に採用。

■非構造材料にリサイクル資材を3品目採用した。

■有害物質を含まない材料の使用を考慮した。

LR3 敷地外環境

注) 「LR3 敷地外環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。

■省エネに努め地球温暖化への考慮を行った。

■雨水浸透ます、雨水タンクを設けた。

■光害の抑制に考慮した。

その他

注) 上記の6つのカテゴリー以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。

熊本県重点評価結果スコアシート

実施設計段階

建物名称 上熊本サービス付き高齢者向け住宅

■評価ソフト: CASBEE-NCb_2010(v1.3)_kmt2011(v1.0)

■使用評価マニュアル: CASBEE熊本《新築》2011年版

★熊本県重点評価結果				総合評価点		83.9
重点事項				評価点	重点事項 重み係数	評価配点
重点項目(配慮項目)		スコア	重み 係数			
① 温室効果ガス排出量削減の推進				86.2	0.40	34.48
Q1-2.1.3	外皮性能	4.0	0.05			
Q1-3.1.3	昼光利用設備	3.0	0.05			
Q1-3.2.2	昼光制御	3.0	0.05			
LR1-1	建物の熱負荷抑制	2.0	0.15			
LR1-2	自然エネルギー利用	3.5	0.20			
LR1-3	設備システムの高効率化	4.5	0.30			
LR2-2.1	材料使用量の削減	3.0	0.10			
LR3-2.3.3	交通負荷抑制	3.0	0.10			
② 安全安心で暮らしやすい社会の実現				68.7	0.20	13.74
Q2-1.1.3	バリアフリー計画	3.0	0.25			
Q2-2.1.1	耐震性	3.0	0.25			
Q3-1	生物環境の保全と創出	2.0	0.15			
Q3-3	地域性・アメニティへの配慮	2.5	0.20			
LR3-2.2	温熱環境悪化の改善	3.0	0.15			
③ 県の地域資源の有効活用と保全				92.8	0.20	18.56
Q3-2	まちなみ・景観への配慮	3.0	0.29			
LR2-1.1	節水	4.0	0.43			
LR2-1.2.1	雨水利用システム導入	4.0	0.29			
LR2-2.5	持続可能な森林から産出された木材	0.0	0.00			
④ 循環型社会の実現				85.5	0.20	17.10
Q2-2.2	部品・部材の耐用年数	3.3	0.30			
Q2-3	対応性・更新性	3.1	0.30			
LR2-2.2	既存建築躯体等の継続使用	3.0	0.10			
LR2-2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	3.0	0.15			
LR2-2.4	非構造材料におけるリサイクル材の使用	5.0	0.15			

■評価点算出式

評価点は、以下の方法により算出しています。

◆総合評価結果

総合評価点 = (各重点事項の評価点 × 各重点事項の重み係数) の総和
 ※重み係数の総和は、「1」であること。

◆各重点事項(①～④の項目)

評価点 = (各重点項目のスコア × 各重点項目の重み係数) の総和 × (5/4) × 20
 ※重み係数の総和は、「1」であること。
 ※(5/4) × 20 : スコア4点を評価点100点に変換するスケーリング定数